

自分の人権感覚を確認してみる



12月は、世界的規模で、「人権月間」です。「人権」に関する意識を高め、皆が平等で互いに大切にしようという文化を広めるための特別な時期となっています。

1948年に国際連合が「世界人権宣言」を採択し、すべての人が生まれながらにして基本的な権利や自由を保障されています。

私たちが生きるうえで、保障されている基本的な権利＝人権。私たちは、それぞれが自分のウェルビーイングを目指して暮らしています。

ということで、柳沢中学校の12月の取組も「尊重」となっており、朝礼で「人権」をテーマに皆さんの人権感覚を確認してもらいました。

人権感覚を磨こう

人権感覚とは、偏見や差別について嫌な気持ちになっている人がいたら、自分ごととして感じ、人ごとではない、「許せない」という心で、すどおりしない、見てみぬふりをしない心のことです。

ワークシートを活用し、誰かと相談しない、独り言をいわずに自分の世界に入って、18の設問の内容が正しいと思ったら○、間違っていていると思ったら×を書いてもらいました。次に、答えを確認して、自分の人権感覚を振り返ってもらいました。

回収したチェックシートを確認してみると、ほとんどの人が良いこととよくないことについて正しく理解していました。

自分の人権感
覚がずれていた
ところがあった
人は、軌道修正
ができるといい
ですね。

[illegible]

人権って、なあに？

人権とは、誰もが生まれながらにしてもっている、「人間として幸せに生きていくための権利」です。たとえば、差別を受けずに平等な機会をもつ権利や、自分の意見を自由に言う権利などが含まれます。これらの権利は、どんな人にも平等に保障されているものです。

さまざまな人権問題があります

人権問題と聞いて、どのようなことが思い浮かびますか。例えば、女性や子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、外国人、性的マイノリティに対する人権問題などが挙げられます。最近では、インターネットによる人権侵害や、職場でのハラスメント、感染症罹患に対する差別なども問題視されています。

人を、自分を大切にしよう

人にはそれぞれ「違い＝個性」があります。見た目や価値観など、人が違いをもっていることは当たり前のことです。

しかし、私たちは「自分とは違う他人」にとまどったり、避けてしまったりすることがあります。また、多様な「個性」に対する勝手な思い込みや固定観念から、差別や偏見が生まれてしまいます。私たちの考え方や生き方に優劣はありません。優劣は、絶対にあってはいけないことです。

人権を尊重するということは、自分とは違う他人を受け入れ、その他人が幸せに生きていくための権利を大切にすることです。このことを一人一人が認識し、行動することで、「人権を尊重する社会の実現」につながります。

人権問題を難しく考えずに、
まずは、あなたの周りにいる
人を大切にすることから始め
てみましょう。



人権尊重について、自分が 取り組めることは何か。 生徒アンケートで多かったこと



- ・人の悪口を言わない。人の秘密を言わない。
- ・あいさつをする。
- ・周りの人を見るようにして、困っている人がいたら、声をかける、力になる、助ける。
- ・差別しない。相手によって態度を変えない。誰に対しても平等に接する。差別しない。人をばかにしない。傷つける言葉を言わない。
- ・自分がされて嫌なことは人にもしない。
- ・イライラを人に向けない。ストレスを人に出さない。暴言、暴力をしない。八つ当たりしない。
- ・まず、相手の意見をきいてみる。
- ・LINE やメールをするときは時間を考える。
- ・相手の気持ちを考える。
- ・見て見ぬふりをしない。

思いやり 相手の気持ち
相手の立場 大切にす
話しかける
いじめをさせない



学校保健委員会 12月19日

お忙しい中、学校医の先生方、保護者代表の方にご来校いただき、柳沢中学校の生徒の体育健康について情報交換や研修を行いました。1学期に実施した健康診断結果やスポーツテストなどのデータを共有したり、学校医の先生方による研修や保護者の方からの質問などにご助言をいただいたりしました。

今後も柳沢中生の健康を推進していきますので、健康カードの取組を頑張っていきたいと思います。



保谷二小さんから パンジーの苗を いただきました

毎年、ありがとうございます！



Callenge English Day

水曜サツ!
校内留学



ペーパーリーダー研修会



校内弁論大会 12月20日 なぜ、弁論大会は大切なのか

秋口から時間をかけて原稿作成に取り組み、各学級代表生徒が学年弁論大会を経て、全校生徒が揃っての本大会が開催されました。

今年もさまざまな着眼点で多様なテーマが多く、感心しました。しかし、多くの生徒が原稿作成に苦労したのではないのでしょうか。人前で話すことが苦手な人も多く、ほとんどの人は、緊張するので人前で話す弁論大会を好ましくないと思っているかもしれません。必要性を昨年度も今年度も話しましたが、中学生にとって弁論大会が大切で必要な行事である理由を AI に聞いてみました。以下の5点が回答として挙げられました。とても共感する内容で、皆さんに伝えてきたことです。

1. 表現力の向上

弁論大会では、自分の意見や感情を言葉で表現する機会が得られ、言葉の使い方や伝え方を学び、自己表現力が向上します。自分の考えを言語化し、人前で話すいい機会、いい経験になるはずなのです。

2. 論理的思考の育成

弁論を組み立てる過程で、論理的に考える力が鍛えられ、主張を支える根拠を考える力が身に付きます。相手に納得してもらうための構成力を身に付けることができるいい機会になります。

3. 自信の向上

人前で話す経験は、自信をつける大きなステップとなります。自分の意見を発表することで、自己肯定感が高まり、今後のさまざまな場面でのプレゼンテーションにも必ず、役立ちます。

4. コミュニケーション能力の向上

相手の反応を見ながら話すことで、相手に伝わるコミュニケーション能力が養われます。

5. 社会問題への理解を深める

弁論のテーマ選びを通じて、社会的な問題について考える機会が得られます。社会への関心が高まり、自分の意見をもつことの重要性を理解ようになります。

これらの理由から、弁論大会は中学生にとって非常に価値のある行事だと言えるのです。

特に社会への関心が高まる点は、朝礼でも話しましたが、是非意識してほしいです。

冬休み中は、ニュースを見たり聞いたりしてみましょう。



——学校評価アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。222 名からご回答をいただき、回収率 84.4%となり、お陰様で、目標を達成いたしました。
——集計結果をご報告いたしますので、しばらくお待ちください。

御
礼